

品目	2020年度 (実績)		2021年度 (見込み)						2022年度 (見通し)		コメント		
	10億円	伸び率	上半期 (実績)		下半期 (見込み)		10億円	伸び率	10億円	伸び率			
			10億円	伸び率	10億円	伸び率							
<b>総額</b>	68,352	▲11.4%	41,862	+30.1%	45,205	+25.0%	87,067	+27.4%	→	87,852	+0.9%	資源・原材料市況の高騰を背景に、鉱物性燃料が20年度比8割増となり、輸入総額を押し上げる。	原油や石炭、鉄鉱石などの価格下落で鉱物性燃料や原料品が21年度比で減少に転じる。
IM 01 食料品	6,603	▲7.5%	3,804	+12.7%	3,679	+14.0%	7,483	+13.3%	↑	7,568	+1.1%	上半期は穀物・肉類など食料品価格が世界的に高騰し、下半期にはやや緩和されるものの、例年と比較して高値で推移する見通し。輸入業者からは相場に対して日本側の提示価格が見合わないため仕入れが厳しいとの指摘が出ており、数量の伸びが下押しされる可能性もある。	供給制約の解消と世界需要の落ち着きによる価格調整、および日本の景気回復による需要の拡大を踏まえ、総じて21年度比で増加となる見通し。
魚介類	1,356	▲12.6%	729	+10.1%	785	+13.1%	1,514	+11.6%	→	1,524	+0.7%	燃料価格高騰、中国を中心とするアジアでの需要増などを受け価格が上昇。緊急事態宣言明けて飲食店への規制が緩和されたことによる外食需要の回復により、数量は20年度比でやや増加。	景気回復の本格化を受けた需要増と、下押し要因となっていた外食需要が戻ることから、19年度以前の傾向に回帰する見通し。RCEPによる関税削減の効果も発効初年度においてはわずかにとどまる。
肉類	1,398	▲9.9%	811	+10.5%	717	+8.0%	1,528	+9.3%	→	1,532	+0.3%	牛・豚ともに米国での飼育数減少、飼料価格の高騰、産地での人手不足・賃金上昇などにより価格が上昇。数量は、海外の購買力の相対的強まりもあり、下半期は伸び悩み、通年度では増加となる見通し。	供給制約の緩和に伴い上昇圧力が緩むも、外食の回復による高価格帯需要の増加で底堅く推移。
IM 02 原料品	4,840	▲0.8%	3,616	+59.8%	3,564	+38.3%	7,180	+48.3%	↓	6,479	▲9.8%	原料品全体の輸入額は、経済活動の再開のなかで、価格が高水準を維持し、需要も回復しつつあるため、20年度から大幅に増加する見通し。鉄鉱石や非鉄金属ともに、価格と数量が20年度から大幅に改善する。	鉄鉱石の価格の落ち着きなどによって、21年度から減少する見通し。
鉄鉱石	1,066	▲13.4%	1,046	+138.8%	1,064	+69.6%	2,110	+98.0%	↓↓	1,673	▲20.7%	下半期の価格は上半期から引き続き高水準で推移する一方で、自動車などの国内生産の回復とともに輸入数量も増加するため、金額も増加する見通し。	数量は21年度並みを維持する一方で、中国などでの需要の落ち着きや供給の回復など、世界の鉄鋼需給ひっ迫度が緩和し、価格が21年度から低下するため、金額も減少する見通し。
非鉄金属鉱	1,572	+15.6%	1,035	+32.0%	872	+10.7%	1,907	+21.3%	↑	1,952	+2.4%	経済活動の再開とともに銅価格が上昇、下半期にかけて高止まりする一方、数量は下半期に定期修理が集中することもあり、上半期から減少するものの、全体として20年度を上回る見通し。	経済活動が正常化に向かうなかで、銅価格が21年度からほぼ横ばいを維持する一方で、定期修理スケジュールから数量は21年度をやや上回るため、金額は21年度をやや上回る見通し。
IM 03 鉱物性燃料	10,576	▲36.2%	7,808	+72.8%	11,180	+84.5%	18,988	+79.5%	↓	18,326	▲3.5%	原油価格の上昇や、国内経済の回復に伴い原油やLNG、石炭の輸入が大幅に増加。	原油や石炭の価格の下落を主因に、原油や石油製品、石炭が減少に転じる。
原油及び粗油	4,057	▲49.2%	3,389	+103.0%	4,351	+82.2%	7,740	+90.8%	↓	7,214	▲6.8%	世界景気を持ち直しやOPECプラスの協調減産などを背景とした原油価格の上昇と円安により大幅に増加。国内経済の回復に伴い、数量も緩やかに増加。	原油価格の下落を主因に減少に転じる。数量は、新型コロナウイルスの影響で落ち込んでいたジェット燃料の需要増が見込まれ、微増となる見通し。
石油製品	1,221	▲22.2%	1,049	+112.6%	1,166	+60.2%	2,215	+81.3%	↓↓	1,912	▲13.6%	原油価格の上昇を主因とした価格上昇により増加。数量は、上半期に国内需要の回復に伴って揮発油や軽油が増加したものの、下半期は輸入品の採算悪化により20年度比で減少する見通し。	原油価格の下落を主因とした価格下落により減少に転じる。数量は、自動車の低燃費化やオール電化などの構造的要因により減少する見通し。
LNG	3,147	▲23.1%	1,784	+29.4%	2,892	+63.5%	4,676	+48.6%	↑↑	5,225	+11.7%	LNGはデリバリーされる3か月前の原油価格にリンクしていることが多く、原油価格の上昇に伴い価格が上昇。	価格は21年度比上昇となる見通し。数量は、原子力発電の再稼働状況や再生可能エネルギーの普及などの影響を受ける。21年度と比較しLNG輸入量は大きく変動しないと想定。
LPG	478	▲8.9%	297	+69.4%	615	+103.4%	912	+90.9%	↑	959	+5.1%	新型コロナ禍からの世界的な経済回復、原油価格の上昇により価格が上昇。数量も、国内需要復調を背景に増加。	工業用や都市ガス用の需要増が見込まれる一方、家庭業務用は世帯数減や、飲食店などの需要減退によりコロナ禍以前の状況に回復することが見込めず、小幅な増加となる見通し。
石炭	1,635	▲30.9%	1,227	+54.7%	2,022	+140.3%	3,249	+98.8%	↓↓	2,786	▲14.2%	原料炭・一般炭ともに大幅な増加に転じる。中国を中心とした海外需給のひっ迫などを受けて、価格が下半期にかけて高騰。数量も、鉄鋼メーカーの調達増、産業用電力需要の復調を受けて増加。	原料炭・一般炭ともに、価格下落を主因に減少する見通し。価格下落は、中国はじめ各国での需要拡大ペースが鈍化し、需給ひっ迫が和らぐことが背景。数量も、国内各社の調達が21年度中に進むもとで、増勢が一服。
IM 04 化学製品	7,897	▲2.2%	5,074	+27.5%	5,024	+28.2%	10,098	+27.9%	↓	10,000	▲1.0%	医薬品のうち、新型コロナワクチンの輸入額は年間で1兆円程度となる見通し。医薬品以外では、多くの品目で増加するが、すでに上半期までに新型コロナ感染拡大後の落ち込みから一部品目を除き回復しており、先行きは現状程度の水準となる見通し。	21年度並みの水準となる見通し。新型コロナワクチンの輸入額は21年度並みを想定、ただし対応薬の輸入が始まる可能性がある。
IM 05 原料別製品	6,697	▲3.0%	4,197	+26.3%	4,220	+25.1%	8,417	+25.7%	↑	8,826	+4.9%	下半期にかけて増加基調を維持する見通し。経済活動の再開とともに需要が増加する一方で、特に鉄鋼・非鉄金属などでは価格上昇が目立った。また、マスクなど新型コロナのなかで急増した需要は落ち動きも見られる。	22年度にかけて、価格上昇には一服感が見られるものの、高水準を推移、数量も緩やかに回復し、全体としてやや増加する見通し。
鉄鋼	705	▲21.1%	519	+53.5%	559	+52.6%	1,079	+53.0%	↑↑	1,209	+12.1%	経済活動の再開とともに国内生産の一部工場の休止によって需要の一部が置き換わることがある一方で、価格はほぼ横ばいを推移するため、輸入金額もやや増加する見通し。	供給網の混乱が落ち着きを見せるなかで、国内高炉の休止による需要の置き換わりも一部にあり、価格は高止まりすることで、輸入金額が増加する見通し。
非鉄金属	1,817	+2.7%	1,483	+85.6%	1,381	+35.6%	2,863	+57.6%	↑	2,960	+3.4%	アルミニウム:下半期は夏以降の景気減速のなかで数量が上半期の横ばいからやや弱含むものの、価格が高止まりすることあつて、金額は上半期を上回る見通し。 白金族:下半期の価格は上半期から低下する一方で、数量はほぼ横ばいを推移するため、金額は下半期から減少する見通し。	アルミニウム:価格は落ち着きを取り戻し、21年度をやや下回る一方で、数量はほぼ横ばいで推移するため、金額は21年度をやや下回る見通し。 白金族:自動車生産の回復などを背景に、価格は21年度から持ち直す一方で、数量は21年度からやや増加するため、金額も増加する見通し。
織物用糸・繊維製品	1,274	+37.5%	495	▲35.0%	488	▲4.6%	983	▲22.8%	↑	998	+1.6%	マスク需給の安定化を主因に大幅な減少。ただし、インテリア向け資材や半導体製造用の研磨材などの需要は堅調に推移。	景気回復のもとで下げ止まり。巣ごもり需要関連の増勢は一服する一方、アウトドア用品向けや衣料品向けの素材、自動車向けの資材が持ち直し。
非金属鉱物製品	575	▲13.7%	344	+24.2%	317	+6.7%	662	+15.1%	↑	690	+4.3%	ガラス及び同製品:19・20年度と低水準を推移した反動増もあり持ち直すなか、下半期には原材料不足などから生産活動が弱含む、上半期並みの金額となる見通し。 ダイヤモンド:経済活動の再開とともに上半期に数量・価格とも持ち直す。下半期には上半期からの回復ペースが一服することもありやや鈍化するものの、年度を通じて20年度を上回る見通し。	ガラス及び同製品:経済活動の再開とともに、21年度からの回復傾向が継続するなか、やや増加する見通し。 ダイヤモンド:景気回復のなかで21年度並みの金額を維持する見通し。
IM 06 一般機械	7,221	▲1.8%	3,826	+8.6%	3,784	+2.3%	7,611	+5.4%	↑	7,942	+4.4%	電算機類は、20年度急増の反動減が生じる。原動機は航空機内燃機関が押し下げ。一方、エアコンは、各部屋への設置が進み好調に推移。	電算機類は、20年度中の急増の反動減が続く見通し。原動機は新型コロナの収束に伴い、航空機内燃機関が持ち直す。
電算機類(含周辺機器)	2,563	+19.3%	1,124	▲10.7%	1,057	▲19.0%	2,181	▲14.9%	↓	2,016	▲7.6%	大幅減に転じる。20年度に大きく盛り上がった、テレワーク普及に伴う法人での需要、「GIGAスクール計画」に伴う学校での需要に反動減が生じる。	減少が続く。セキュリティ機能強化、ゲーム向けといった高付加価値パソコンや大画面モニタなど、需要増が期待できる分野もあるが、基本的には、20年度中の需要急増の反動がさらに続き、輸入全体を下押し。
IM 07 電気機器	11,800	+0.3%	6,600	+25.0%	6,641	+1.9%	13,241	+12.2%	↑	14,381	+8.6%	下半期の携帯電話は部品不足による生産減や個人消費低迷により上半期から減少する見通し。一方、テレワーク進展に伴いNW関連機器や音響映像機器の需要は堅調に推移するも、通信機の下半期は上半期の反動減でマイナス。半導体等電子部品の数量・価格は高水準で推移する見通し。	通信機は5G普及やテレワーク進展に伴う機器やインフラ需要により、堅調に推移。半導体等電子部品の供給は回復傾向となるも価格は高水準で推移。
半導体等電子部品	2,548	▲1.2%	1,674	+36.0%	1,660	+26.0%	3,334	+30.8%	↓	3,100	▲7.0%	コロナ禍からの世界経済回復、日本経済の第4四半期の堅調な成長を加味すると、当面高い需要が続くと想定。21年度中は供給制約が持続するものの、総じて高めの数量・価格で推移する見通し。	21年度の急激な伸びは落ち着くものの、依然半導体の需給バランスひっ迫は続き、高値、高数量で推移。22年度にかけての経済活動の正常化に伴い、半導体は需給ひっ迫が緩和し、価格が落ち着く見通し。
通信機	3,052	+9.7%	1,520	+26.6%	1,600	▲13.6%	3,120	+2.2%	↑	3,300	+5.8%	携帯電話は、半導体不足による生産や景気減速による個人消費の低迷により、下半期は20年度を割る水準になる見通し。NW関連機器に関しては、在宅勤務のためのインフラ需要は落ち着いたとみられるものの、テレビ会議のためのデータ通信機器の需要は引き続き堅調に推移する見通し。	携帯電話は5Gインフラ敷設が進むにつれて買い替えが進み、NW関連機器は5Gインフラ敷設のための基地局やデータ通信機器の需要が引き続き高く、通信機全体では21年度を上回る見通し。
IM 08 輸送用機器	2,641	▲24.2%	1,562	+37.8%	1,665	+10.5%	3,227	+22.2%	↑	3,485	+8.0%	自動車輸入は、需要の回復に伴い、20年度からの反動増も、半導体不足で主要輸入元である欧州からの数量が伸び悩み、19年度水準までには回復せず。部分品の輸入は、20年度からの反動増も、上半期に東南アジアでの新型コロナ拡大により減少、下半期で挽回する見通しも、全体としては19年度水準までには回復せず。航空機類の下半期の輸入は、上半期を上回る見通し。	自動車および自動車部分品は、景気回復や半導体不足の解消に伴い、堅調に推移する見通し。航空機類は、21年度同レベルで推移し、輸送機器全体としては、19年度水準に回復する見通し。
自動車	1,206	▲14.9%	687	+36.1%	687	▲2.0%	1,374	+14.0%	↑	1,457	+6.0%	上半期は、感染リスクの低い移動手段としてのマイカーの需要が堅調も、半導体不足の影響により、欧州からの輸入が減少傾向。下半期は、ワクチン普及に伴い、消費マインドに上昇の動きが見られるも、引き続き、半導体不足を背景に欧州からの輸入が減少し、上半期並みとなる見通し。全体としては、20年度からの反動増も、19年度水準までには回復しない見通し。	経済回復を反映し、需要は強含むものの、22年度入り頃まで半導体影響が続くと予測のもと、欧米からの輸入は緩やかに回復する見通し。ASEANや中国からの輸入は堅調に推移。全体としては、19年度水準までには回復する見通し。
航空機類	395	▲53.9%	240	+23.3%	293	+45.8%	533	+34.7%	↑↑	593	+11.4%	航空機類は3～8年の受注生産ながら、納入は延期されている。下半期は、民間は上半期と横ばい程度となる一方、政府調達で下半期偏重と思われるため、下半期輸入は上半期を上回る見通し。	新型コロナの収束による航空需要の回復により、民間航空会社による機材更新・調達が増加する見通し。政府調達は22年度予算が21年度とほぼ同レベルであり、21年度同レベルで推移する見通し。
IM 09 その他	10,076	▲8.4%	5,373	+12.1%	5,448	+3.1%	10,821	+7.4%	→	10,845	+0.2%	雑製品除く衣類及び同附属品:家具などの巣ごもり需要の恩恵を受ける品目と、バッグ類や履物などの逆風が続く品目が入り交じる。精密機器類:コロナ禍の影響からほぼ回復。一部で半導体などの電子部品価格の上昇も増加に寄与する。ただし、時計や一部医療用機器はコロナ禍の影響が残る。なお、注射器は大幅増加。 特殊取扱品:金は20年度の増加の反動で減少も、ここ数年比ではやや高めの水準となる見通し。再入品はここ数年の平均並みと想定。	巣ごもり需要が品目別に与える影響は徐々に薄れるが、合計するとほぼ21年度並みとなる見通し。精密機器類は一部品目の価格上昇と医療用機器の回復が増加に寄与する。
衣類・同付属品	2,710	▲13.2%	1,381	+4.6%	1,439	+3.4%	2,819	+4.0%	↓	2,775	▲1.6%	小幅増に転じる。ただし、アジア生産国でのロックダウンなどに伴う納期遅延など、サプライチェーンの混乱を背景とした価格上昇が主因。数量は、外出機会減少を背景とした国内需要低迷により、減少が続く。	再び減少。新型コロナの収束に伴うサプライチェーンの正常化により、価格上昇が一服するため。数量も、経済活動の正常化に伴い衣料品需要の底入れが期待されるものの、在宅勤務の普及による紳士服やフォーマルウェアの低調持続が輸入回復の重しとなる。
製品輸入	46,332	▲4.6%	26,633	+21.2%	26,783	+10.3%	53,416	+15.3%	↑	55,479	+3.9%	製品輸入比率61.4%(20年度比▲6.4ポイント)	製品輸入比率63.2%(21年度比+1.8ポイント)

\*2021年度上半期の実績は9桁通帳ベース、金額は表示単位未満を四捨五入しているため計算が合わないことがある。

\*「↑」は前年度比増加、「↓」は減少、「→」は横ばい(前年度比±1%未満)を表している。